

とりあえず、両方やってみよう



西本ゆかり

三菱ケミカル(株)分析物性研究所
[227-8502] 横浜市青葉区鴨志田町1000
副所長.
専門は高分子解析.
nishimoto.yukari.mp@m-chemical.co.jp
<https://www.m-chemical.co.jp/>

博士号をもっているわけでもない一企業の社員の私に原稿依頼が来たときは本当に驚きました。過去のメッセージを見ても「すごい人ばかりやなあ。私とはレベルが違うわ」と思う方々がたくさん。そんな気持ちの中でお受けすることにしたのは、「こんな人もいるんだなあ」と風変りなモデルの一つとして学生や若手、そして同世代の方々に笑って読んでもらえればと思ったからです。

会社生活も約30年になりました。入社した日本合成化学工業(株)(2019年4月に三菱ケミカル(株)に統合)は先輩女性研究員が数人、子育てをしている女性総合職はゼロという環境でした。まだまだハラスメントの認識が低かった時代、今なら一発アウトになるセクハラ・パワハラ・モラハラ・マタハラの発言も、女性に対する身に覚えのない嫉妬や悪口を受けたこともありました。悔しくて眠れないこともあったような気がしますが、これを書くにあたってこれまでの社会人生活を思い返してみると、多くの悔しかったことを笑い話や酒のつまみにしながら仕事と私事(妻業、母業)をこれまで続けられたのは、“周りの大きな助けがあったこと”と“お気楽な性格だったこと”なのだと気づきました。

結婚前に「炊事・後片付け・洗濯・掃除の好きな二つを選んでいいよ」とニコリと告げる私と結婚してしまった夫には精神面・労働面でとても助けられたことはもちろん、研究所で初めて育児休暇をとるにあたって親身に手続きをしてくれた事務部門の方々、子育てしやすい部署に誘ってくれた元上司、同時期に産休・育休を取って支え合った職場のママ仲間、保育園からの突然の呼び出しに仕事の後始末をやってくれた先輩、トラブル発生時に子供をピックアップしてくれたうえに晩御飯まで食べさせてくれたママ友、子供が思春期の難しい時期に愚痴を聞いてくれた友達、忙しい時期も変わらず遊んでくれた学生時代からの友達、そして母が遅い日には洗濯・料理を黙ってしてくれた息子、挙げればキリがないほど多くの人に助けられました。

令和になっても、IT化が進んでも、子育て真っ最中の人は、今でも同じような綱渡りの日々を過ごしているんだろうかと、子育て中の後輩を見て「頑張れ!」と応援し、助けてもらった分以上に後輩を助けられればいいかと、毎日を過ごしています。

こんな綱渡りのような日々を過ごしながらでも、仕事を辞めたいと思ったことはありませんでした。仕事で失敗してどんなに落ち込んだりしても、心身ともにシンドイことがあったりしても、小学生の息子のお弁当を忘れてしまっても、「あー、なんてアホなんやろ」と落ち込むのですが、2~3日後には「しゃーないな、次に頑張ればええか」と思ってしまうのが自分でも不思議です。なぜかと考えてみると、私自身が、「自分の能力不足は私が一番よく知ってるやん。最初から上手くいくと思ったほうが悪かったんやろなあ」と思っているから。「仕事も私事も欲張って両方やってるんやから、上手くいけばラッキー」と思っているからでしょう。

悩むより行動してしまう性格が幸いし、今のところ仕事は続けられています。周りの人に陰に日向に助けられ支えられているからだに感謝しています。最近は、子育てもほぼ終わり、家事も減り、ちょこっと介護が乗っかってきたけど、乳幼児を育てていた怒涛の日々を思えばずいぶんと落ち着いた日々を送っています。

ここ数年は、若手をお母ちゃんのような気分で見ている私からメッセージを伝えられるとしたら、「仕事と私事。どちらかで悩むなら両方やってみたらいいよ。悩むってことはどっちもやりたいってことやから、選ぶのは後でも大丈夫」、そして当たり前のことだけど「社会は多くの人が支え合って成り立っていて、助けられることが多くあるから、人を助けるチャンスがあれば逃さず助けておいてね」。

最後に、「仕事も私事も、楽しんで頑張ってるやっいたらなんとかなるよ。ポチポチと頑張りやあ。」